

第53号議案

武蔵府中郷土かるたの文化財指定について

上記の議案を提出する。

令和5年11月16日

提出者 教育長 酒 井 泰

## 武蔵府中郷土かるたの文化財指定について

武蔵府中郷土かるたの文化財指定について、次のとおり決定する。

### 1 名称

むさしふちゆうきょうど 武蔵府中郷土かるた しよずりいつしきおよ 初刷一式 げんが 及び原画

### 2 員数

#### (1) 武蔵府中郷土かるたの初刷

内容は、読み札と取り札各46枚の計92枚、その予備札4枚、あいさつ状1枚、項目所在図と内容一覧1枚、収納箱1合

#### (2) 赤羽末吉の手描きによる取り札原画46枚

### 3 所在地（保管場所）

府中市南町6丁目32番地 府中市郷土の森博物館

### 4 所有者

府中市

### 5 文化財の種別

府中市有形文化財（歴史資料）

### 6 品質形状及び寸法

#### (1) 武蔵府中郷土かるたの初刷

- ・読み札と取り札（予備札含む）

紙製（和紙との合紙）、縦8.9センチメートル、横6.3センチメートル、厚さ0.05センチメートル

- ・あいさつ状

紙製、縦7.6センチメートル、横18.15センチメートル、二折

- ・項目所在図と内容一覧

紙製、縦23.65センチメートル、横35.15センチメートル、八折

・収納箱

長方形覆蓋造

蓋は紙製、縦 9.7 センチメートル、横 13.9 センチメートル、高さ 1.9 センチメートル、組立て式

身は、紙製、縦 9.5 センチメートル、横 13.5 センチメートル、高さ 2.05 センチメートル、総高 2.05 センチメートル、組立て式

(2) 赤羽末吉の手描きによる取り札原画

紙製（和紙）、水性絵具（一部墨）、縦 8.9 センチメートル、横 6.3 センチメートル、厚さ 0.05 センチメートル

## 7 説明

(1) 概要

本歴史資料は、昭和 48（1973）年 1 月に発行され、今日府中市郷土の森博物館に保管される「武蔵府中郷土かるた」（以下、「郷土かるた」という。）の初刷の読み札と取り札各 46 枚の計 92 枚、予備札 4 枚、あいさつ状 1 枚、項目所在図と内容一覧 1 枚、これらを収める収納箱 1 合及び赤羽末吉（あかばすえきち、1910～1990 年）の手描きによる取り札原画 46 枚で構成される。歴史資料であるとともに、教育資料としての価値を有する。また、発行当時のものがほぼ改変もなく、現在に伝えられてきた郷土かるたは、国内でも稀有な例である。

郷土かるたの読み札の句は、府中市の歴史、民俗、伝承、自然、文化財などをテーマに詠まれたもので、その裏面には関連事象のわかりやすい解説が付されている。府中市教育委員会では、今日まで 15 万 6 千組ほどを発行してきた。現在でも、市内小学校の第三学年児童全員に郷土学習資料として配布し、小中学校のふるさと府中学習の教材として活用されている。

(2) 郷土かるた制作の趣旨、作成の経過及び活用の取組

郷土かるたの制作の趣旨は、昭和 46（1971）年 10 月 29 日開催の第 1 回作製準備委員会記録によると、府中市は国府が置かれた歴史の町で、市民や子どもたちの郷土愛の醸成を願って、やさしく明るく口ずさめ、親しめる郷土府中のいろはかるたを制作する、とある。

昭和 29（1954）年に 1 町 2 村が合併して新たに府中市が誕生した。

新しい市としての一体感を企図して、さらに8年後の昭和36(1961)年には市史編さん事業が開始されたこともあり、次代を担う子どもたちが楽しみながら、郷土の歴史や伝統文化に親しめる教材が求められた。

読み札の作製は、810枚の市民公募等の文案から調整された。

取り札である絵札の原画は、赤羽末吉の手描きによる。赤羽末吉が昭和26(1951)年から昭和45(1970)年までの20年間、府中市民であったことなどの理由で選ばれたものと考えられる。赤羽末吉は、現在でも、多くの子どもたちに親しまれている絵本「スーホの白い馬」や「笠地蔵」などで知られる日本の絵本画家で、海外からも高い評価を得て、国際アンデルセン賞画家賞を受賞している。その美術的価値とともに、優雅であじわいのある絵の魅力も、郷土かるたが多くの市民に親しまれてきたことにつながっている。

市の教育委員会では、昭和48年に「郷土かるた展」を開催するとともに、「郷土かるためぐり」標識・標柱48本を各読み札の関連場所に設置し、現地散策を呼び掛けた。その結果、現在でも、夏休みの自由研究などで、親子で標識巡りをすることも恒例となっている。また、小中学校とも総合的な学習で取りあげるほか、かるた大会などを実施し、郷土学習の教材としてきた。

さらに、郷土の森博物館主催の展示会や府中市の遺産の活用を考える会による武蔵府中郷土かるた選手権大会なども開催されてきた。

このように、これまで長きにわたって、市民とともに郷土かるたの普及・啓発に努めてきたことがわかる。

郷土かるたは、過去50年間のみならず今後も、郷土学習のための学校教育資料と位置づけられるだけでなく、府中の長い歴史と伝統が反映された貴重な文化財として高い価値を有する。さらに、郷土の歴史に対する関心と、本市に愛着を感じてもらふ重要なアイテムであり、市民共有の財産となっている。よって、将来に亘って永く保存し、活用すべき文化財と思料される。

8 他の法令による制限  
特になし。

9 参考文献

府中市教育委員会『武蔵府中 郷土かるためぐり』昭和59年11月

府中市『府中市政史』平成5年3月

府中市教育委員会『府中市教育史』下、平成14年12月

府中市の遺産の活用を考える会『武蔵府中郷土かるた解説書』平成30年11月

赤羽茂乃『絵本画家 赤羽末吉 スーホの草原にかける虹』福音館書店、令和2年4月

小野一之「宮本常一が府中から考えた観光のこと、博物館のこと」『あるむぜお』No134 府中市郷土の森博物館、令和2年12月

松本三喜夫「武蔵府中郷土かるた」と赤羽末吉『新府中市史研究 武蔵府中を考える』第4号 府中市史編集委員会・府中市、令和4年2月

府中市『新府中市史 近現代 資料編』下、令和4年3月

## 10 指定後の方針

指定後は、郷土かるたの文化的・歴史的価値を将来に亘って永く維持するために、初刷一式と原画の保存を図る。さらに、学校教育や多くの市民に広く利用されるべく、活用を推進していく。

## ○指定基準

府中市文化財の指定、登録及び選定に関する基準（抜粋）

### 第1 府中市指定文化財

#### 1 府中市指定有形文化財

##### (6) 歴史資料

ウ 歴史上重要な事象及び人物に関する遺品で、歴史的又は系統的にまとまって伝存し、地域的又は学術的価値の高いもの

武蔵府中郷土かるた初刷

読み札・読み札裏面解説・取り札・赤羽末吉の取り札原画（左から配列）

図1-1 ①の札



図1-2 ③の札



図1-3 ④の札



図1-4 ㊦の札



図1-5 ㊧の札



図1-6 ㊨の札

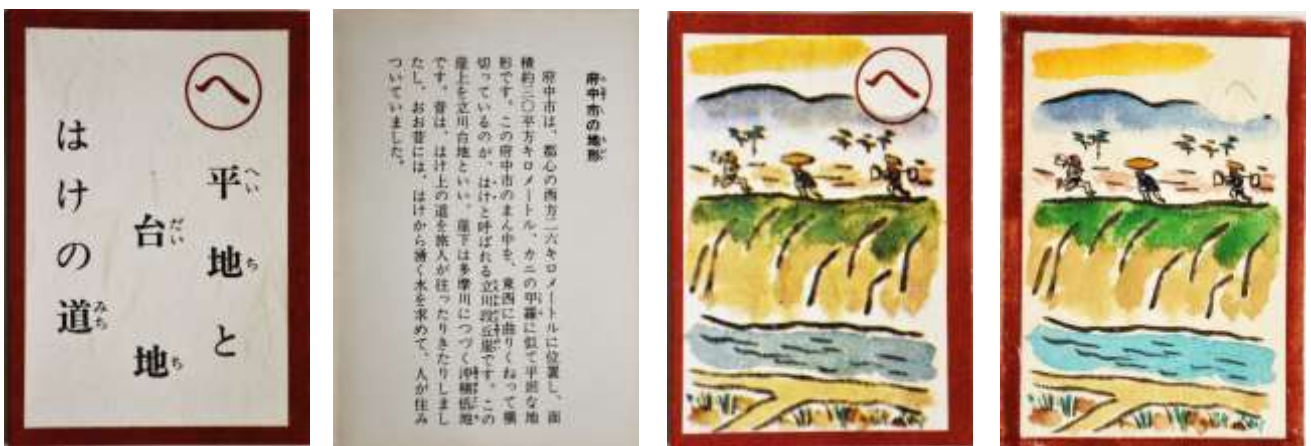


図1-7 ㊦の札

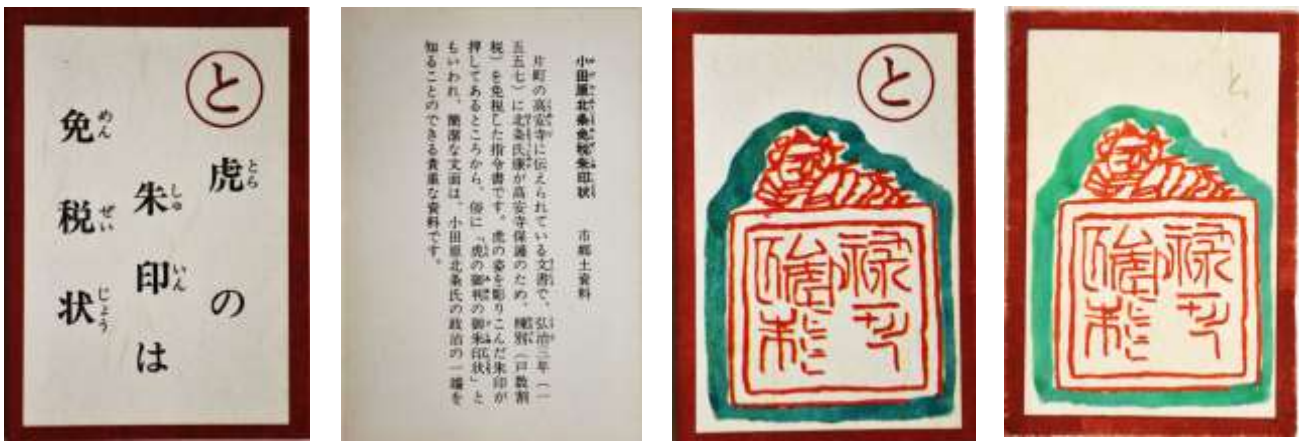


図1-8 ㊧の札



図1-9 ㊨の札





図1-10 ぬの札



図1-11 るの札



図1-12 をの札



図1-13 ㊦の札



図1-14 ㊧の札



図1-15 ㊨の札



図1-16 たの札



図1-17 れの札



図1-18 そらの札



図1-19 ㊦の札



図1-20 ㊧の札



図1-21 ㊨の札



図1-22 ㊦の札



図1-23 ㊧の札



図1-24 ㊨の札



図1-25 ㊦の札



図1-26 ㊧の札



図1-27 ㊨の札





図1-31 ㊦の札



図1-32 ㊧の札



図1-33 ㊨の札





図1-34 ㊦の札



図1-35 ㊧の札



図1-36 ㊨の札



図1-37 (き)の札



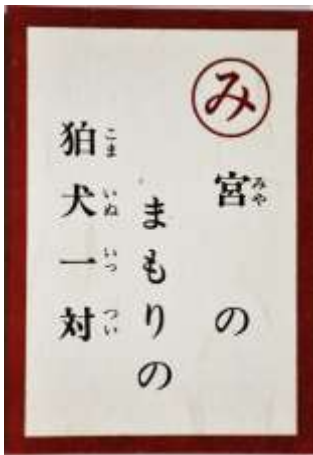
図1-38 (ゆ)の札



図1-39 (め)の札



図1-40 ㊦の札



本館館長二輝 国東文

この一対の狛犬は、大國魂神社の宝物の一つで、樹材・彫り出し、漆塗り全部仕上げのあとを換えています。高さは七センチメートルで、力強い作風から、一説に鎌倉時代の運慶の作ともいわれています。この狛犬はもと大國魂神社の拝殿と社殿の間にあった中門の両面に向いあい、神社を守護していたものです。狛犬の資料を委を大と思ひ、日本犬とは違っているので、異国の犬、すなわち首麗(こま)犬と呼んだのでしよう。



図1-41 ㊧の札



品川道 品川道は、府中から彰徳の品川へ通じる道だったことからついた名称です。他に信濃ともいわれるのは、多摩川に渡り、江戸に材木を運んでいた当時、渡人足が、府中道にあった宿屋に泊るために、渡人に渡った道だったため、そう呼ばれるようになったと思われています。現在、品川道にある「里塚の跡」は、もともとこの道にあったものではなく、この道より南側にあったものを昭和十三年(一九三八)に移したものです。



図1-42 ㊨の札



人見原合戦 品川道

南北朝時代の正平七年(一三五二)、新田義興の子源朝・義宗らが、足利尊氏と戦った古戦場です。品川道で戦われたこの人見原・金井原(小金井市)の合戦に続き、小平原・入間川原、武蔵国へと合戦は展開していきます。これらの合戦は、武蔵国で行なわれた南北両朝最大の決戦で、太字記に記された合戦の様子はいさぎやかな道徳・樹形・馬など、さながら花絵巻を見ることが出来ます。



図1-43 ㊦の札



図1-44 ㊧の札



図1-45 ㊨の札



図1-46 ㊦の札



図1-47 予備札

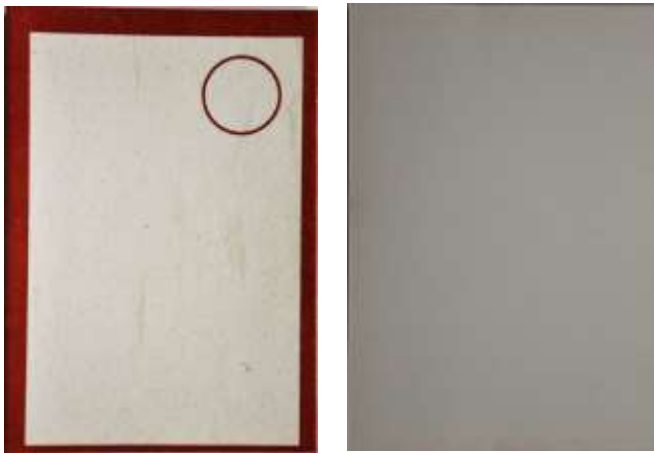




図3 武蔵府中郷土かるた 初刷 あいさつ状

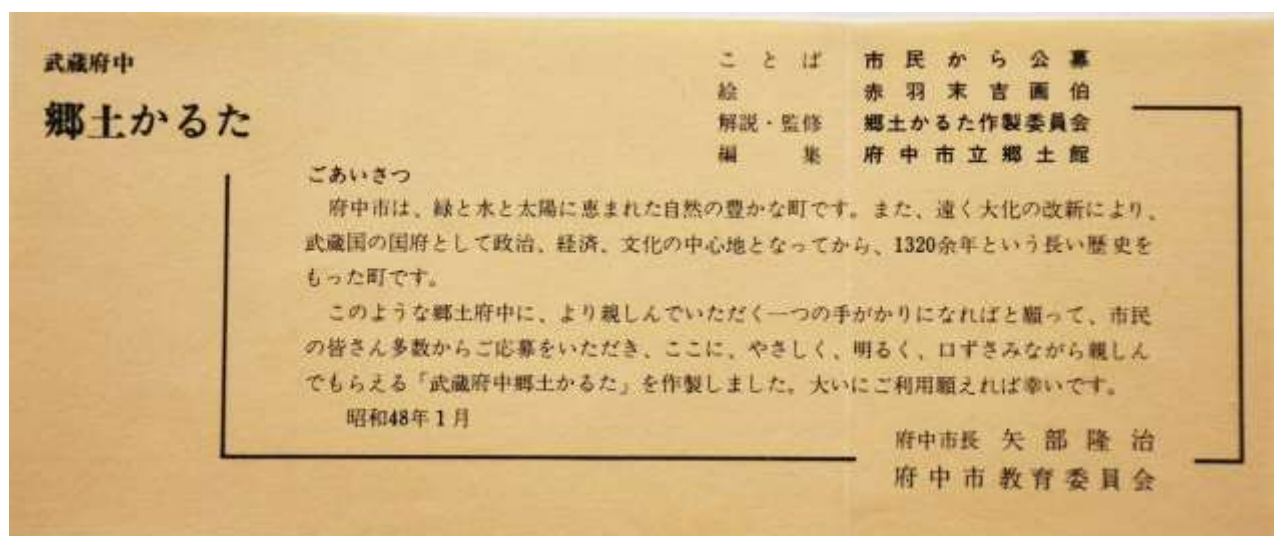


図4 武蔵府中郷土かるた 初刷 収納箱

図4-1 武蔵府中郷土かるた 収納箱 蓋 (表)



図4-2 武蔵府中郷土かるた 収納箱 蓋 (裏)



図4-3 武蔵府中郷土かるた 収納箱 蓋 (側面)





図4-4 武蔵府中郷土かるた 収納箱 身 (内面)



図4-5 武蔵府中郷土かるた 収納箱 身 (外面)



図4-6 武蔵府中郷土かるた 収納箱 身 (側面)

